



大谷 弥生



動画配信中

市民との協働による啓発活動を推進せよ！

問 新型コロナウイルス感染症に関連する差別をなくすため、市民有志が立ち上げたシトラスリボンプロジェクトと、本市はどのように連携していくのか。また、期待する効果を聞きたい。

総務部長 市民が主体的に実施する啓発活動を非常に心強く感じており、市民団体と連携して啓発活動を進めることは、同感染症に関連する差別をなくすために大きな波及効果があると考える。今後、市有施設でのポスターの掲示やチラシの配布により、同プロジェクトの周知や啓発活動を支援していきたい。

◆認知症

問 認知症に関する啓発活動を市民団体等と協働で行っているが、どのような効果を期待しているのか。

健康福祉部長 多くの方に認知症を理解していただくことで認知症の方を支える人が増え、地域の支援力が高まると考えられる。認知症を身近に感じ、共に生きるという気運が醸成されることでより効果的な啓発につながることから、今後も市民との協働による啓発活動を行っていききたい。



末吉 利啓



動画配信中

現中橋の魅力ある活用を！

問 架け替えにより歩行者・自転車専用道となる現中橋の余剰空間を活用し、新たなまちづくりへ寄与する事業を展開してはどうか。

都市建設部長 新たに生じる空間をまちづくりに活用することは非常に有効な方策である。本町緑地の一部オープン化により河川空間に調和した店舗等の立地も期待できるため、こうした取り組みを十分に生かし、中心市街地で行っている事業と連携して特色あるまちづくりを推進していく。

◆道路空間の利活用

問 テラス営業等のための道路占用許可基準の緩和期間終了後、道路占用料は個店にとって大きな負担となるが、継続的な支援に対する考えを聞きたい。

都市建設部長 北仲通りの歩道上で実施しているほろ酔いテラスについては、足利ミッドタウン商店会の計画書に基づき、市が関係機関から道路占用等の許可を受けて使用を認めているため、道路占用料は発生していない。今後、同商店会の意向を十分に確認し、緩和期間終了後も負担が生じないよう対応していききたい。



須田 瑞穂



動画配信中

足利市小俣処分場の都市計画決定について問う！

問 足利市小俣処分場を都市計画施設に位置づけることにより、対象区域内における開発の許可や制限等にどのような影響があるのか。

都市建設部長 同処分場を都市計画施設に位置づけることで、対象区域内は同処分場の用に供する施設のみ建設可能となることから、本市唯一の最終処分場として、その機能を長期的に維持・保全できるようにするとともに、埋め立て後の跡地も含め、市が継続して維持管理を行うこととなる。

◆各施設の整備

問 熱中症や新型コロナウイルス感染症対策のため、足利市民武道館にスポーツクーラー等を設置しているが、設置に至った経緯を聞きたい。

教育次長 利用者からの暑さ対策に関する要望を受け、令和元年度に市がスポーツクーラーを4台設置した。また、令和2年度には連日の猛暑とマスク着用機会の増加によりさらなる暑さ対策の要望があり、スポーツクーラー不足についての相談もあったため、足利市みどり文化・スポーツ財団が電動仮設クーラーを設置するに至った。